

今、アメリカの経済は悪化しつつあり、余談を許さず、消費も低迷し、小売業に大きな影響が出、倒産、店舗閉鎖、出店自粛、リストラ…等が続々と起こっています。

このアメリカの経済の悪化を招いた出来事が、サブプライムローンです。サブプライムローンとは、一般的には不動産の買い手の信用基準を基に、ローンを組むのですが、買い手の信用基準に満たない人々(プライム層ではなく、サブプライム層)向けの住宅ローンです。基本的には低所得者向けであり、貸し手としてはリスクが高いために高金利の貸付となります。それゆえに、サブプライムローンは、低所得者向け高金利住宅ローンと言われています。このサブプライムローンが、住宅バブル(不動産バブル)を生み、また、バブル経済の崩壊のきっかけになりました。

サブプライムローンは、少額の頭金、相対的な低金利、金利のみの支払いの据置期間が5年(金利オンリーローン)、税金申告や給与明細等のローンに必要な書類を揃える必要もなく、ローンを受けることができる仕組みでした。

しかも、不動産価格は毎年上昇し、5年間で2倍になる勢いでした。それゆえに、実際に元金と金利を払う5年後に住宅は2倍になり、その時に売り払えば大儲けすることができたのです。また、リファイナンス(借り換え)を行い、購入時の価格とバブルで値上げした価格の差に、さらにそれまで支払った返済分を担保にして、さらにローンを組み消費に回しました。さらに住宅を買うとベビーブームが起り、さらに関連消費が増大しました。子供の出生は、2003年には409万人、2004年は412万人、2005年は414万人、2006年には427万人と増え続けました。

**家を持つと人口増と消費増が起り、経済が益々好景気になりました。**この好循環システムが2007年に崩れ、ムリにムリして来たアメリカ経済がサブプライムローンをきっかけに、バブル経済として崩壊しつつあります。

すなわち、次のプロセスで、アメリカの経済は泥沼には入りつつあります。

- ①2007年夏にサブプライムローン(低所得者向け高金利住宅ローン)が、不動産市場の悪化により問題化しました。
- ②しかし、この段階ではまだ、金融不安はありましたが、株式市場は活気を制しており、2007年10月10日に、ニューヨークダウ平均は**14,100ドルの市場最高値**をつけました。
- ③同時に、まだ実体経済は安泰であると判断し、市場最高値をつけた株式市場から逃げた投機資本や機関投資家の資金が、原油や鉱物や穀物市場(商品取引市場)へ一挙に流出しました。
- ④その結果、2008年7月にニューヨークの原油先物相場は、**1バレル147ドルの最高値**をつけ、1年間で2倍高騰しました。証券市場で14,100ドルの中証券市場最高値をつけた9ヶ月後に、原油が最高値をつけました。
- ⑤しかし、2007年夏からの金融不安が現実化して、2008年9月にリーマンブラザーズ(大手証券会社)が経営破綻すると金融危機が世界恐慌を引き起こすとの懸念が広がり、株式市場だけでなく、原油や鉱物、穀物の商品取引市場から逃げ、最も安全な資産である債権や金などに急速に移り始めました。
- ⑥同時に、2008年7月に1バレル147ドルの高値であった石油価格が、2008年10月に1バレル70ドルを割り、3ヶ月で2分の1になりました。
- ⑦2008年10月は、世界的な株価暴落が起き、それ以降は、さらに投資家の安全志向が高まり、金や債権も売られ、究極の安全投資である「現金への逃避」が起こっています。
- ⑧その結果、右肩上がりであった**金相場(2008年3月に最高値)**が2008年10月16日の一時1トロイオンス800ドルを割り込み、米国債も売り圧力が出始めています。
- ⑨今、金融危機の深刻化を受けて、投機家及び投資家が極端なリスク回避志向に陥っています。
- ⑩今後、欧米の投機家・投資家やファンドは2008年12月の決算期に向け資金繰り確保に躍起です。市場では「リスクマネーの枯渇」がさらに景気を加速させることの懸念が広がっています。

実体経済で膨脹した資金は、実体経済を上回る過剰資金化し、そして投機が重なり、次々と大膨脹した資金は行き場を探し、行き場行き場で株、不動産、原油、鉱物、穀物、金、債権のインフレを起こし、やがて行き場がなくなると一挙に収縮し、バブル経済が終結します。後は、再生手法と再生期間の国家による政策が残ります。